

短期オンライン留学のアンケート分析

松田 憲

東北公益文科大学総合研究論集第42号 抜刷

2022年1月31日発行

研究ノート

短期オンライン留学のアンケート分析

松田 憲

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの影響により、令和3年度も多くの高等教育機関において学生の海外への渡航を伴う留学が自粛されており、留学が必須となっていて海外の大学への渡航を希望する学生は、留学を予定している国の感染状況を注意深く見守っているような状況である。留学で実際に海外を訪れて外国語で人々とコミュニケーションをとって生活しながら学ぶ効果は非常に大きい一方で、COVID-19の対応策として海外への渡航を伴わない「オンライン留学」がさまざまな大学で導入されている。

本稿では、令和3年度夏季休業期間に本学で行われた短期オンライン留学に参加した学生を対象に行ったアンケート調査の結果を分析し、今後のオンライン留学の充実に役立てることを目的とする。

2. 短期オンライン留学プログラム

令和3年度夏季休業期間は、オーストラリアの西オーストラリア大学（UWA）、ニュージーランドのワイカト大学（WU）、アメリカのクレイトン大学（CU）、カナダのリジャイナ大学（UR）の4大学と短期オンライン留学を実施した。それぞれのプログラムの実施期間と参加者数は以下の通りである。

実施大学	実施期間	参加者数
西オーストラリア大学	8月16日～9月3日	5名
ワイカト大学	8月16日～8月27日	8名
クレイトン大学	8月30日～9月17日	5名
リジャイナ大学	8月29日～9月17日	1名

アンケート項目2の「英語でのオリエンテーションはありましたか」では、参加者は4大学すべてにおいて実施されたと回答している。

3. 西オーストラリア大学 (UWA)

授業のレベルについては、UWA オンライン留学参加者で回答のあった全員が「ちょうどよかった」と回答しており、事前に行われた英語プレイスメント・テストの結果と英語力を評価する国際指標CEFRに基づいて習熟度別クラス編成が行われたことで、自分と習熟度が同程度の参加者のクラスで学ぶことができたようである。一回あたりのオンライン授業時間は4時間で、「ちょうどよかった」33%で「長すぎた」「やや長すぎた」が67%との回答から少し長かったかもしれない。しかしながら、大学が位置しているオーストラリアのパース市との時差は1時間（日本が早い）だけで、午前9時30分～午後1時45分まで休憩を挟んで集中的に英語を学ぶことができ、海外とのオンライン留学でありがちな時差による参加者への負担がほとんどなかったようである。授業内容については、全員が「興味を持てる内容だった」と回答しており、その理由として以下のように回答している。

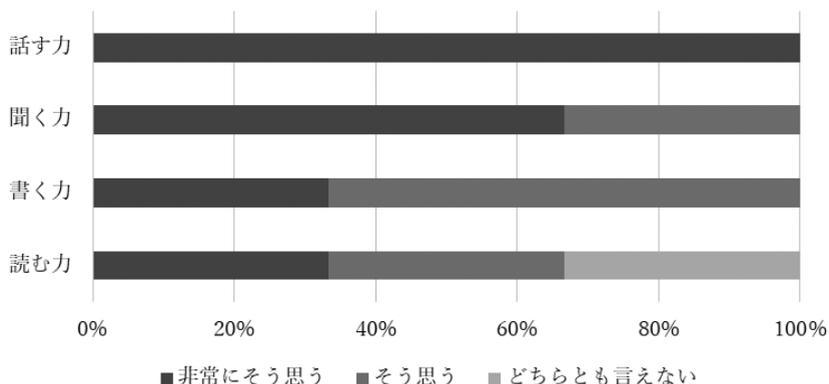
- ・オーストラリアの文化を日本の文化と比較することができた。
- ・今まで学校で習ってきたことを英語で説明される機会がなかったので、新たな視点から見直すことができた。
- ・文法や前置詞について学んだが、海外の人が考える前置詞のイメージや文法の考え方を学び、とても自分のためになった。また、3～4人のグループに教員や現地の学生が入って、オーストラリアの生活や習慣、動物等について興味深いディスカッションができた。

項目7「あなたにとって教員の教え方はわかりやすかったですか」は、「そう思う」67%、「ややそう思う」33%という回答で、教員の教え方は概ねわかりやすかったと回答している。

項目8「オンライン留学参加前と比較して、自分の英語の4技能はそれぞれ向上しましたか。」について、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そうは思わない」「全くそうは思わない」から1つ選んで回答した結果を図1にまとめた。話す力について「非常にそう思う」100%、聞く力について「非常にそう思う」67%と「そう思う」33%、書く力も「非常にそう思う」

33%「そう思う」67%、読む力も67%が「非常にそう思う」か「そう思う」と回答しており、思いのほか参加者の英語力向上の自己評価は高かった。

図1 英語力向上の自己評価



参加したオンライン留学への満足度を問う項目9については、全員が「期待以上だった」と回答しており、その理由として、

- ・リスニング力が本当に向上した。また、オーストラリアについて理解でき、自分が思った以上に成長できた。
- ・他の学生と交流する中で自分の英語レベルを実感することができ、自分に必要な力を知ることができた。
- ・現地の学生とディスカッションができ、ホストファミリーと会話したことで現地に行った気分になった。

と回答している。同年代の現地大学生との文化交流（Cultural Exchange）は、実際の留学の臨場感を感じられる取り組みとして有効である。また、ホストファミリーとの会話については、UWAはHomestay family Buddyというユニークな取り組みを提供しており、参加者が日本に居ながらにしてホームステイ先として割り当てられた現地家族とオンラインで交流する機会が設けられている。オンラインである程度ホームステイを疑似体験できることから、今後オ

ンライン留学が普及するうえで重要な役割を担ってくるものと思われる。以下はHomestay family Buddyを経験した参加者のコメントである。

- ・ホームステイでは、日本とオーストラリアの違いや文化の共有をすることが楽しかった。社会保障や環境問題についても議論し、とても勉強になった。異文化理解のスキルを向上することができたと思っている。

項目10「オンライン留学で生じた自身の変化」については、「英語への関心が高まった。」「リスニングとスピーキングが特にレベルが上がった。」「他の国の文化への関心が高まった。英語を話すことに少し自信がついた。」との回答から、異文化への関心と英語学習への動機付けが高まったものと思われる。

項目11「他の学生に今回参加したオンライン留学を勧めますか」には、回答者全員が勧めると回答し、その理由として「自分が思う以上の成果を見込めるから。」「毎日英語を話さなければならぬため、自然とコミュニケーション能力が身につくから。」などの回答があった。

4. ワイカト大学 (WU)

授業のレベルについては、WUオンライン留学参加者で回答のあった参加者の75%が「ちょうどよかった」、25%が「少し難しかった」と回答している。英語プレイスメント・テストをオンラインで受験しているが、結果として参加者全員が同じクラスとなった。一回あたりのオンライン授業時間は3時間程で、全員が「ちょうどよかった」と回答している。大学が位置しているニュージーランドのハミルトン市との時差は3時間（日本が遅い）で、午前9時～午後12時30分まで英語を学び、WUにおいても海外とのオンライン留学にありがちな時差による参加者への負担が比較的少なかったようである。授業内容については、全員が「とても興味を持てる内容だった」か「興味を持てる内容だった」と回答しており、その理由として以下のように回答している。

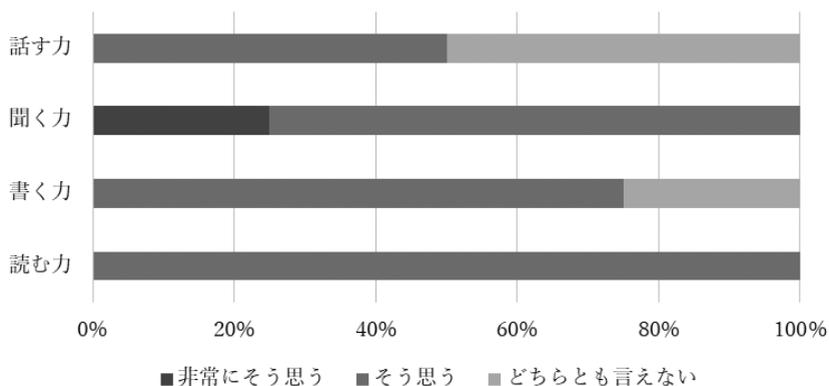
- ・授業でニュージーランドの文化やマオリ族の文化について学べたことは貴重な経験だった。

- ・ニュージーランドの文化、食べ物、音楽、名所など、授業を通じて多くのことを学んだから。

項目7「あなたにとって教員の教え方はわかりやすかったですか」は、「そう思う」50%、「ややそう思う」50%という回答で、教員の教え方は概ねわかりやすいと回答している。

項目8「オンライン留学参加前と比較して、自分の英語の4技能はそれぞれ向上しましたか」について回答した結果を図2にまとめた。話す力の自己評価を向上させるには、授業でもっと英語を話す機会を設けるなどの工夫が必要かもしれない。

図2 英語力向上の自己評価



参加したオンライン留学への満足度を問う項目9については、「期待以上だった」50%、「期待通りだった」50%と回答しており、その理由として、

- ・ひたすら英語を話して、聞いて、書いての繰り返しの中で英語を習得していくものだと思っていたが、グループワーク等を通じて他大学の学生とも交流しながら楽しく学ぶことができたから。
- ・授業外で英単語を覚える課題や学習した内容を復習する課題が出されたり、授業内でディスカッションなどを行って充実していた。

などの回答があった。その一方で、クラスのほとんどが日本人だったためZoomのブレイクタイムで日本語に頼ってしまった部分もあったとの回答もあった。

項目10「オンライン留学で生じた自身の変化」については、「英語圏に関する国際交流に積極的に参加するようになった。」「オンライン留学を受講して以降、授業内で挙手するようになった。」「語学力をもっと上達させるために、英語学習により力を入れていきたいと感じた。」などの回答から、英語学習への動機付けが高まったようである。

項目11「他の学生に今回参加したオンライン留学を勧めますか」には、回答者全員が勧めると回答し、その理由として「異文化に興味があり、実際に体験したい人にはお勧めだと思います。」「ただ英語を学ぶだけでなく、いろいろな人と交流しながら自分のペースで学習できるから。」などの回答があった。

5. クレイトン大学 (CU)

授業のレベルについては、CUオンライン留学参加者の40%が「ちょうどよかった」、60%が「少し難しかった」と回答している。「少し難しかった」と感じた理由として「ディスカッションで自分の伝えたい事を伝えるための単語が分からなかったり、聞かれていることが聞き取れなくて難しかった。言いたいことがすぐに出てこないことも理由にある。」と回答している。本学からの参加者を中心にクラスが編成されているが、メキシコや東欧からの参加者もいた。一回あたりのオンライン授業時間は2時間で、2名の教員がそれぞれ1時間の授業を担当し、参加者の20%が「やや短すぎた」、80%が「ちょうどよかった」と回答している。大学が位置しているアメリカのオマハ市との時差は14時間(日本が早い)で、CU側が前日の午後7時~9時に授業を行ってくれたおかげで、本学の参加者は午前9時~11時に英語を学ぶことができた。時差の比較的大きいCUとのオンライン留学においても、CU側の協力により時差による参加者への負担が軽減されている。授業内容については、全員が「興味を持てる内容だった」と回答しており、その理由として以下のように回答している。

・アメリカの歴史や文化、休日などについて動画を観たり、ディスカッション

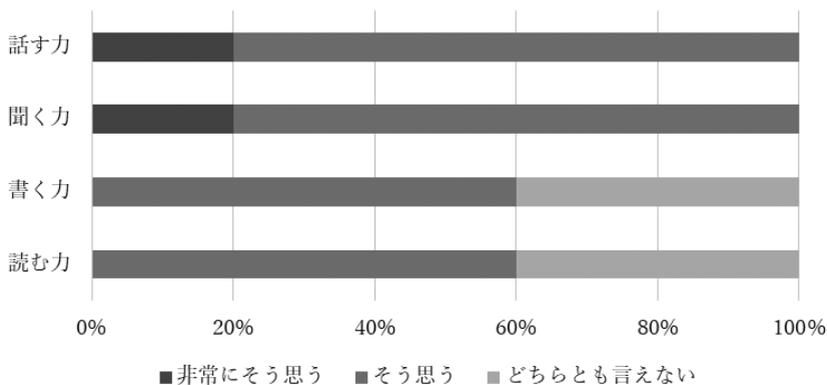
を通して多方面からの考え方や様々な意見について触れることができたから。日本では知ることのできなかつた事や、コミュニケーション能力や自分の英語のスキルについて改めて見直しつつ、向上させることにつながったから。

- ・それぞれの文化について英語で説明したり会話したりするのが楽しかった。また、ビデオを観る授業では、内容はかなり難しかったが興味深い内容だったから。
- ・様々な分野について、アメリカの文化と日本の文化などの違いを知ることができたから。
- ・文化や習慣等を実際に現地に住んでいる人から話を聞くことができたから。
- ・アメリカの歴史についての授業が面白かった。

項目7「あなたにとって教員の教え方はわかりやすかったですか」は、「そう思う」20%、「ややそう思う」80%という回答で、教員の教え方は概ねわかりやすかったようである。

項目8「オンライン留学参加前と比較して、自分の英語の4技能はそれぞれ向上しましたか」について回答した結果を図3にまとめた。話す力と聞く力の両方で「非常にそう思う」20%、「そう思う」80%、書く力と読む力では「そう思う」60%、「どちらとも言えない」40%と回答しており、「話す力」と「聞く力」について参加者の英語力向上の自己評価は比較的高かった。

図3 英語力向上の自己評価



今回参加したオンライン留学への満足度を問う項目9については、「期待以上だった」20%、「期待通りだった」80%と回答しており、その理由として、

- ・公益大の学生だけでなく他の国の学生や日本の他の地域の学生とも話す機会や交流する機会があり、いろいろな考えに触れたりすることができた。また、毎日様々なトピックについて学ぶため、学ぶ楽しさに触れられた。
- ・思った以上に自分が話す機会があつて、ディスカッションもたくさんできたから。
- ・オンラインなので実際に現地の雰囲気などを感じることは難しかったが、授業自体は特に問題なく受講できた。
- ・授業はしっかり受けて様々なことを勉強できたが、実際の留学と比べると劣ってしまう部分がある。
- ・英語での授業を体験したいという目的で挑戦したが、想像した通りだった。

と回答しており、今回はメキシコや東欧からの参加者もいて英語でコミュニケーションをとるなど、異なる言語や文化的背景を持つ者同士で学び合うことは有意義であり、できるだけ多くの国の留学生とのクラス編成が可能なオープンプログラムが望ましい。その一方で、やはり実際に現地に行って参加する留学と比較すると物足りないと感じたようである。

項目10「オンライン留学で生じた自身の変化」については、以下の回答があった。

- ・もっと多くの国の人に関わったり、話してみたいと思いました。また、自分の英語の能力を更に高めようという意欲を持てるようになりました。
- ・外国の人と話す時に上手く言葉が出なくてコミュニケーションが取れなくなってしまうのではないかという不安が最初はあったが、いざやってみるとそれなりにコミュニケーションを取ることができたので少し自信がついた。
- ・英語で話すことへの恐怖が少し無くなりました。
- ・英語で話す際の間違いをあまり気にせず、伝えることを重視するようになった。

項目11「他の学生に今回参加したオンライン留学を勧めますか」は、回答者の60%が「はい」と回答し、40%が「いいえ」と回答している。勧める理由として、

- ・実際に現地に行って学ぶことができたなら一番良いと思いますが、金銭的な面や1日2時間ほどの授業時間の事を考えると、気軽に楽しく英語を学ぶ機会になると思うから。
- ・現地に直接行かなくても外国の人と話す機会を作ることができる点と生活様式の変化などによって体調等を崩す心配がないという点が良いと思うため。
- ・自宅でネイティブの先生の授業が受けられることと、先生が私の拙い英語でも理解しようとしてくれたから。

を挙げている。一方、勧めない理由として「留学と比べてできる経験や体験が少ないから。」「現地の文化的体験や他学生との交流がほとんど無かったため、EAPの授業と変わらないと思ったから。」といった回答があった。現地での文化的体験は、バーチャルツアーのような方法である程度は実現する可能性があるが、可能となった場合でも別途費用が発生するものと考えられる。他学生との交流は、実施大学の教員が工夫すれば十分可能と思われる。

項目12「今後、オンライン留学について改善すべき点があれば書いてください」については、「Zoomの機械的な接続のトラブルがあった場合などの対応が早いと、皆が困惑しないでオンラインで受けられると思う。」といった回答や「現地の人と交流する機会がもっと多いと良いと思った。」などの回答があった。教員は突発的な接続トラブル等を想定してその対処に備えておくことも必要であり、可能であればUWAで実施しているHomestay family Buddyのような現地の人ともしっかりと交流する取り組みがあることが望ましい。

6. リジャイナ大学 (UR)

URは本学からの参加者が1名だったので、千葉大学の参加者50名と一緒に3クラスに編成された内の1クラスに参加した。一回あたりのオンライン授業時間は2時間で、大学がカナダ中央部に位置するため時差が15時間（日本が早

い) で、授業時間の長さは「ちょうど良かった」と回答している。UR側が前日の午後7時～9時に授業を行ってくれたおかげで、本学の学生は午前10時～正午まで英語を学ぶことができ、オンライン留学で時差の影響が比較的大きい地域においても、実施大学の協力により時差による参加者への負担が軽減されている。現地大学生がCultural Assistantとして英会話や文化セッションに参加している。また、UWAで実施しているHomestay family Buddyのような有料のVirtual Local Contactと呼ばれるサービスを提供している。

授業内容について、カナダの文化や生活を現地に住んでいる人から学ぶことで、モチベーションや自信がついたと回答し、教員の教え方も「わかりやすい」と回答している。英語力向上に関する自己評価は、書く力「そう思う」以外のすべてを「非常にそう思う」と回答しており、参加者の英語力向上についての自己評価はとても高かった。

7. おわりに

本学では、令和2年度はCOVID-19により海外留学の実施が難しい状況だったため、アイルランドのコーク大学と最初の「オンライン留学」を2020年11月23日から2021年2月2日に実施した。令和3年度もコロナ禍により海外への渡航を伴わない短期オンライン留学を、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダの4大学と協力して実施した。

筆者を含めて本学で国際交流を推進する教職員の多くは、海外への渡航を伴った留学は経験しているが「オンライン留学」を経験していないのが現状である。そのような状況の中で、今年度オンライン留学に参加した学生にアンケートを実施して、各プログラムに対する参加者の声を明らかにすることは、今後オンライン留学を充実させるうえで必要であることからアンケートを実施して分析した。当初、オンライン留学では時差の壁が大きく立ちはだかると思われたが、実施大学の協力により、できるだけ参加者の負担の少ない時間帯で実施されている。また、できるだけ現地での留学に近い体験を参加者に提供するため、Homestay family BuddyやVirtual Local Contactのようなサービスも提供されていて、日本に居ながらホームステイの疑似体験ができるような新しい試みも行われている。

COVID-19という外的要因によって新たな留学形態として生まれたオンライン留学であるが、ポストコロナのニューノーマル時代においても、従来の海外渡航を伴う留学と使い分けることにより、それぞれの長所を生かして充実させていければと考えている。

参考文献

- 柿内利宏 (2021-07) 『『学びの継続』から『期待に応える』へ：亜細亜大学のオンライン留学 (小特集 オンライン留学の課題と可能性)』『大学時報』69巻399号, 76-79。
- 仙台白百合女子大学国際交流センター (2021) 「ビクトリア大学2021年春休みオンライン留学生へのアンケート集計結果について」 https://sendai-shirayuri.ac.jp/itn_exchange/pdf/canada_questionnaire2021.pdf, (参照2021-11-1)。